

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

「calling」

～通信教育部で過ごした2年間の体験記

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 佐藤 肇

「calling」 = 呼ばれたからには!!

私は、本学通信教育部に平成26年4月に3年次編入学し、平成28年3月に卒業しました。本学との出会いは、入学前年の平成25年秋に遡ります。

私は当時、民間企業で長年勤務する身でしたが、その業務は単に生計のためだけの「work」のレベルでした。もちろんその上の「career」は望むべくもない環境でした。

そんな折、まるで「満を持した」かのごとく、別な方向から新たな光明が見えました。それはさまざまな「偶然の出来事やひらめき」が結集した、社会福祉の世界で勤しみ尽くすべきという「calling」の光明でした。

「calling」とは、「work」や「career」のレベルを超越した「天職」であり、文字通り「召命」されて実現します。「calling」の光明を見出した私は、呼ばれたからには!! と人生意気に感じ、社会福祉の世界への移行を決心しました。そして移行の実現を承認してくれた妻には、深く感謝した次第です。

本学との出会いも、言わば「calling」の一つでした。私の父祖の地である東北に所在する本学への、不思議な縁とシンパシーと共に、社会福祉の世界に移行すべく2年間にわたる「自分との戦い」が始まりました。

「自分との戦い」 = 苦戦！ また苦戦!!

「人生意気に感じ」入学しましたが、社会福祉援助技術実習の受講要件が達成される4年次の初頭までは、多忙を極める勤務先での業務の合間を

縫っての「かけもち学習」を余儀なくされ、当初より学習への制約および苦難が予想されました。

さらに2年間の内に、「本学での全科目合格での卒業」、「新しい就職先への転職」、そして「社会福祉士国家試験合格」の、これら3つの完全達成が必須となりました。それらは私にとって、野球の投手の「予告完全試合」、打者の「9回裏逆転満塁予告サヨナラ本塁打」、そしてゴルファーの「全18ホールの予告ホールインワン」のごとき様相と困難度を呈し、当時の私の46歳という年齢を鑑みて、苦戦の度合いは測り知れませんでした。

学習は当初より苦戦となり、入学直後にいきなり存在する社会福祉技術演習Aの受講要件達成の締め切りを、業務多忙などのハプニングにより危うく破るところでした。結局睡眠も余暇も削ってなんとかギリギリ締め切りは守れましたが、この苦戦とハプニングと焦燥感、その後も「常在の友」となりました。

業務の合間を縫っての学習とレポート作成は遅々として進まず、遂には3年次の10月から翌3月までの半年間は一切の娯楽を断ち、業務以外の全ての時間を学習のみに費やしました。厳冬期で外は豪雪の中、不眠不休も辞さず寒い自室で学習を一心不乱に行う様は、さながら「僧侶の荒行」の姿にも似ていたと、今にして思います。

学習は苦戦ばかりではなく、会場でのスクーリング受講に楽しみがあります。そこは年齢も経歴もさまざまな「同志」が集う場であり、孤独な通信学習の中でたどり着く「オアシス」とも表現できます。「同志」たちとの交流、および先生の「生のけいがい警戒」に触れることは、学習達成の大きな原動力になることを実感しました。

実習＝利用者たちの「個性と才能の発現」との邂逅

「僧侶の荒行」の成果により、4年次初頭に無事、社会福祉援助技術実

習の受講要件を達成できました。それを機に当初の計画通り長年勤務した企業には辞表を提出、平成27年7月に退職しました。以後は「かけもち学習」も解消し、全力を学習および「3つの目標達成」に集中できる環境となったのは、ありがたいことでした。ここでも妻に感謝です。

学習における「最大の正念場」である実習は、平成27年初秋の5週間24日間、重度身体障害を持つ利用者たちが日々暮らす障害者支援施設において実施となりました。

実習では、利用者との「密接な生の触れ合い」を心掛け、利用者それぞれが何を思い、どのような価値観を持って暮らしているかを、利用者自身の生の声で聞き、理解するよう努めました。

実にさまざまな「愛すべき個性」を持つ利用者たち…。利用者たちとの「密接な生の触れ合い」は、私が企画し施設職員の方々と他校の実習生の協力を得て、実習最終日前日の23日目に実施した、私と利用者たちとの打楽器アンサンブルにおいて佳境を迎えました。

同時に4～5人の利用者たちと、事前に何の打ち合わせも奏法指導もしない、完全即興での打楽器演奏でした。そこでは利用者の感性と積極性、そしてバイタリティに起因する「個性と才能の発現」により、なんと「フリージャズのごときインプロビゼーション」が出現するという驚愕の光景となりました!! 私はそこで利用者たちとの「心の邂逅^{かいこう}」を体感し、利用者たちの「個性と才能の凱歌」とともに、実習の「有終の美」を愛すべき利用者たちと分かち合うことができました。

社会福祉士国家試験＝「短期集中決戦」

4年次の12月前半までに卒業試験を含め全ての学習を完了させ、国家試験の学習は約1カ月間だけの「短期集中決戦」となりました。

本学で学んだ、「殊更な『国家試験合格対策のみ』の学習をするのでは

なく、『日々常々の学びと気づき』の積み重ねで人間的に成長した結果、『気が付いたらいつの間にか社会福祉士になっていた』というのが理想、という教えを活かし、孫子の「先ず勝って而る後に戦いを求める」兵法を独自に応用した結果、「短期集中決戦」でしたが無事初回受験で国家試験に合格できました。改めて本学の諸先生方に感謝の念を申し上げます。

余談ですが、私が用いた国家試験一発合格の方法は、「過去問題の反復演連」、「予想問題などによる最新ネタの入手」、「受験テクニックの研究」でした。過去問題の反復はパソコンweb問題の『赤マル福祉』が効率よく確実です。「最新ネタ」の入手は、試験には新しい法律や制度などが必ず出題されるため必須です。そして効率的な受験テクニックは、時には「知識を超越」するため、確実合格のためには不可欠です。以上ご参考までに。

終わりに＝「callingされた先」にて

2年間の「自分との戦い」に勝利し、当初掲げた「3つの目標」を完全達成でき、今現在は「callingされた先」にいます。転職については、某社会福祉事業団の採用試験に合格して正規職員として採用され、なんと懐かしの実習先に配属となり、4月より勤務に入っております。また、つい先日には待望の『社会福祉士登録証』が手元に届き、やっと名実共に社会福祉士になれたため、決意を新たにしました次第です。

48歳にして人生初の「社会福祉の最前線」に立った現状ですが、早期に業務に慣熟し、日々の地道な実践の中で、利用者の「その人らしい自己実現」と「個性と才能の発現」に尽力していく所存です。

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

- ボランティア論 小野芳秀先生 2016. 2/27~28 仙台 VTR
 - ・長年ボランティア活動を行ってきたが、今回のスクーリングで改めてボランティアというものを再考するよききっかけになった。
 - ・ボランティアに対する考え方が変わり、やってあげるではなく、相手と共に一緒に楽しんでやるのが大切である。自分のできる範囲でいかに楽しく活動するかがボランティア活動を楽しむコツであることを学んだ。
 - ・ボランティアについて全く無理解だったが、いろいろなボランティアについて知ることができた。今後更に理解できるよう、実際にボランティアに参加してみたいと思った。
 - ・実際に先生が活動された経験について、悩んだことや反省点などをお話してくださったことで、誰でもいろいろ考えながら、立ち止まりながら自身の感情と向き合いながら、活動していくのだなと学びました。
- 特講・社会福祉学10(スクール・ソーシャルワーク論) 川口正義先生 2016. 3/5~6 仙台
 - ・スクール・ソーシャルワークは子ども本人というよりは、子どもの環境を見直し、変えていくことが、先生の話や実践例を通じて具体的に知ることができた。
 - ・とても意欲的に活動されている先生なので、説得力もあり尊敬できます。沢山の本やインターネットで文献を検索し、ある程度理解していたつもりでしたが、講義を聴くことで理解が深まりました。
 - ・現在の学校現場において、SSWの役割の重要性、必要性を強く感じました。私自身が学校現場にどのように支援に携わることができるのか考えさせられました。
 - ・オンデマンドでは感じられない先生の声を聴きたくて受講しました。先生の取り組みや事例を通して、これからの自身の仕事(支援)のヒントを沢山得られました。まだまだ諦めずに勉強していきたいと思います。
- 障害者教育実習の事前(・事後)指導 辻誠一先生 2016. 3/26~27 仙台
 - ・指導案の書き方など、具体的に教えていただきとてもためになった。もっと色々な指導案をみて参考にしていきたいと思った。
 - ・先生の実体験を基にした様々なお話を聞くことができ、とても有意義な講義でした。
 - ・スクーリング前は実習に対して不安でしたが、多くの励ましのお言葉をいただき、前向きに考えることができました。